



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年02月07日 第1055号「週刊五十嵐レポート」

音楽家はビジネスマン

2月5日付日経新聞夕刊のコラム「あすへの話題」は大江千里氏。大江氏は私と同世代で80年、90年代にシンガーソングライター、ラジオ番組のパーソナリティ、テレビ番組の司会として活躍していた。それが2008年に音楽活動を休業し、米国へジャズ留学、今は米国在中のジャズピアニストとして活躍している。

米国に残ってジャズをやりたいという気持ちになり、永住権を申請、ジャズレーベルを立ち上げ、デビューした。日本では所属事務所とレコード会社が味方になってくれて、シンガーソングライターとして音楽に専念できた。

一方、米国では全部自力でやらなくてはいけない。会社(レーベル)を興し、弁護士や公認会計士を雇い、社長としてメディアPR、ラジオPR等の専門家を探して個別に契約を交わす。著作権の管理会社にも登録する。面倒だが慣れると信頼が生まれ、仕事はやりやすくなる。

米国の音楽ビジネス界はコネがないとなかなか表に出にくい面がある。PR担当と僕の音楽の相性がバチッと合うとチャートが跳ね上がる。

厳しい世界だが、自分で選んでいるので納得できる。この国には唯一無二の個性をすくい上げてくれる懐の深さがある。米国の背中を追うのではなく、日本人であることを貫きながら、ジャズをやりぬく。音楽家はビジネスマンだ。

昨年のショパン国際ピアノコンクールで第2位になった反田恭平氏も経営者の一面を持つ。オーケストラの会社を設立。「オーケストラをつくるのが最終目標ではなく、演奏による収益で大きく成長させ、新しい事業をして、上を目指すため」「若い音楽家たちが継続的に活躍できるように経済基盤を整える必要がある」。最終的には音楽学校を作る。

キーワードは「唯一無二」。音楽家自体が特殊な能力なのかもしれない。だが音楽家同士の競争もある。その中で違いを発揮して認めてもらう。いわゆる他者との差別化。これを極めていく。大江氏では米国人をマネするのはなく、日本人であることの個性を深掘りし、音楽に反映している。

ちょっと
気になる出来事

2月3日付朝日新聞スポーツ欄に「サクサク時短、濃密なオリ流」という記事。オリックス担当記者の話。野球のキャンプは日暮れまで練習するものと思っていたが、オリックスは午後3時にはグラウンドから人がいなくなる。すべては中嶋監督の考え。「効率の良さは常に求めてきた」

野球にありがちな無駄な待ち時間が少ない。Aグループのメイン球場、Bグループのサブ球場が隣接し、サブグラウンドもすぐ隣にある。両グループの練習は同じタイムスケジュールで進む。ブルペンも両グループの投手が一齐に来てやり、投手が待たされることはない。

中嶋監督は現役引退後、大リーグ・パドレスにコーチ留学。米国流の時短キャンプに学んだ。おかげで記者も早く帰って休める。他球団担当者からうらやましがられている。

これはビジネスでも言えること。営業地域を決めないで遠方まで営業すると利益を生まない移動時間だけが増える。整理整頓しないと探す時間が増える。生産性を上げて時短にする。ここにも戦略はある。



一口メモ
知識

程好い節(ふし)を設ける

天地は節(せつ)ありて四時(しいじ)成る。

「節(せつ)」は竹の節(ふし)である。

固い節目で一区切りつけて止まり、次の節目に至るまでは伸びる。

竹は節があるから真っ直ぐに伸び、強い風にも耐えられるのである。

四季の巡りにも、程好い節がある。

節分といえば春であるが、立夏、立秋、立冬も季節の移り変わり目、節目にあたる。四季は節を設けて巡り、万物は成長する。

人間も物事も節を設けることで成長する。

適度な節を設けなければ、人も物事も途中で折れてしまう。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

